

2018年度ユニーク卒論

総合政策 学部

担当教員名	大村 華子
論文執筆者名	山川 朋世
論文の題 (テーマ)	税負担は投票参加にどのような影響を与えるのか—マクロ・データとマイクロ・データを用いた税制と投票参加の関係に関する分析
簡単な内容 (概要)	<p>本稿は、租税負担率と投票参加の関係を、マクロ・レベルの国際比較データ、マイクロ・レベルのサーヴェイ・データ、マイクロ・レベルの実験データを用いて検証した論文である。本稿の関心は、税率が高い場合に有権者は政府に対して政策的なパフォーマンスの充実を求め、それが政治への関心、政府を監視しようとする動機づけにつながり、投票意図の上昇につながる、というメカニズムの解明である。国際比較のデータ分析からは、投票参加を規定する主たる要因は義務投票制度であるものの、租税負担率も重要な要因であることが示される。但し、マイクロ・データの分析からは十分に仮説を裏付ける分析結果は得られなかった。</p>
推薦の理由	<p>本稿は、選挙研究においても重要と考えられている投票参加の要因の分析に、税負担の視点から検討を加えた興味深い研究であると考えられます。税負担が高ければ、人々はより政府への監視を強める、それが高い投票参加をもたらすということは理論上想定されるものの、必ずしも多くの実証研究がなされてきたわけではありませんでした。</p> <p>執筆者は、3年次の進級論文の時からこのテーマに取り組み、3年次にはマクロ・データの分析、4年次にはマイクロ・データの分析と着実に作業を進めてきました。進級論文時に、マクロ・データによる各国の傾向の分析だけでは不十分で、個人の意思決定のメカニズムのレベルで、なぜ税負担が投票意図を上げるのかを確かめる必要性を意識し始めました。そして、欧米の先行研究を多数参考にし、8カ月の期間をかけてオンライン上でのサーヴェイ実験のデザインを設計し、分析を行いました。</p> <p>残念ながら、オンライン上のサーヴェイ実験において、仮説を支持する結果を得ることはできませんでしたが、(1)明快な理論的主張と検証仮説の設定、(2)欧米の文献を中心とした先行研究の的確な整理、(3)マクロ分析における適切な方法選択、(4)(部分的な)分析の知見の面白さから、本研究をユニーク卒論に推薦させていただきます。</p>